

けいはんな

けいはんな学研都市 広報誌 【けいはんなビュー】

2016.09 Vol.31

View

特集

「京都スマートシティエキスポ 2016」開催

寄稿

特集

注目! 企業
インタビュー

温故
知新



同志社大学長
松岡 敬 氏

文化と科学が融合する 都市を目指して

同志社大学の創立者である新島襄は米国のアーモスト大学で学び、日本人として初めて「理学士」の学位を取得しました。その後帰国し、1875年に同志社英学校を設立、以降141年の歴史をここ京都と共に歩みを進め、現在では14学部16研究科、学生数約29,000人の学園へと発展を遂げました。

2013年度に本学はいわゆる文系学部を今出川に統合移転し、人文・社会科学の知の継承を行う今出川校地、そして最先端のサイエンスを担う京田辺校地という2拠点化を図り、教育研究の更なる深化を目指しています。特に関西文化学術研究都市に所在する京田辺校地は、京田辺市にある京田辺キャンパスおよび多々羅キャンパス、木津川市にある学研都市キャンパスの3キャンパス体制を取っており、愛称「Creative Hill」のコンセプトのもと、「身体・生命、先端技術、情報、健康」等に関する研究を行っています。たとえば、このたび文部科学省による2016年度からの「共同利用・共同研究拠点」事業に、本学の「赤ちゃん学研究セ

ンター」が認定を受けました。赤ちゃん学研究センターは、学研都市キャンパス快風館内に拠点を置き、胎児期からの発達原理の解明や発達障がいの発生メカニズムの解明、また子どもの健康と環境に関する全国調査などを中心とした研究などに取り組んでいます。このように本学は、教育にとどまらず、研究面においても他大学をリードする取り組みを行っています。

京都は文化財が豊かで伝統的文化が蓄積しており、文化行政のさらなる強化が期待できるとし、文化庁移転が決定しています。そしてここ関西文化学術研究都市はその名の通り、「文化」に関する研究都市として文化と科学が交わる最先端の拠点となるべき場所です。

同志社大学もその一員として、最先端企業や研究所、そしてベンチャー企業等と連携をしながら、同志社大学ならではの特色を活用し、より一層有機的な連携を目指していきたいと考えています。今後とも皆様のご理解およびご支援を引き続きお願いいたします。



「京都スマートシティ エキスポ 2016」開催

●オープニング

主催者及び来賓によるあいさつにより、ICT(情報通信技術)を活用した次世代の都市像を探る「スマートシティメッセinけいはんな」が開幕しました。



主催者あいさつ
京都府 山下 晃正 副知事



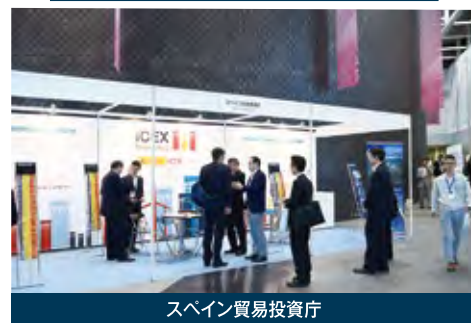
来賓あいさつ
スペイン・バルセロナ見本市会社
スマートシティエキスポ世界会議
ルイス・ゴメス 国際部長

スペイン・バルセロナ市で毎年開催されている「スマートシティエキスポ世界会議」の世界3極体制の中のアジア開催として、3回目の「京都スマートシティエキスポ2016」が開催されました。「安寧(あんねい)で持続的な未来を創る地域と産業」をテーマとして、6月1日(水)は国立京都国際会館にて国際シンポジウムが、2日(木)と3日(金)には、けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)を会場に、「スマートシティメッセinけいはんな」が開催されました。3日間を通じて、世界28ヵ国約470人を含む約10,200人の方々が参加され、世界最先端の技術や動向を踏まえた熱心な議論や商談が行われました。以下、「スマートシティメッセinけいはんな」の開催状況をご紹介します。

●企業・団体展示等

協賛をいただいたグローバルプレミアサポーター、プラチナサポーターをはじめとして、国内外から124の企業・団体がICTを基盤とした環境・エネルギー、交通、健康・食、教育などの分野で最先端の製品や技術の提案、会場の屋外も活用した「安心・快適な日常生活を営むスマートシティ」を体感できる企画展示を行うとともに、「ビジネスセミナー」によるプレゼンテーションが行われ、来客者とのビジネス交流が展開されました。

グローバルプレミアサポーター

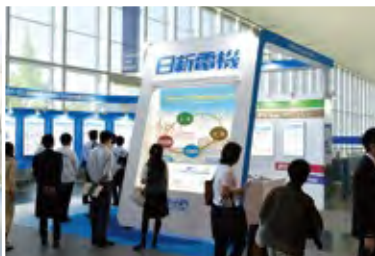


スペイン貿易投資庁

プラチナサポーター



シスコシステムズ合同会社



日新電機株式会社



日本テレネット株式会社

企画展示



ビジネスセミナー



●スマートシティセミナー等

国内外から著名なスピーカーを迎え、スマートシティ推進の共通基盤であるICTなど最先端の技術やシステムの開発動向とそれらの環境・エネルギー、モビリティ、健康・食、文化・教育等の分野への展開事例、社会実装するために必要な条件整備等について考察を深めました。



カーネギーメロン大学
ワイタカー記念全学教授
金出 武雄 氏



国立研究開発法人情報通信研究開発機構
ユニバーサルコミュニケーション研究所長
木俣 豊 氏



ヤマハ株式会社
チーフプロデューサー
瀬戸 優樹 氏



スペイン経済競争力省
貿易投資庁投資局長
ホセ・カルロス・ガルシア＝テケベド 氏



グローバルフューチャーグループ(LLC) 理事長
ジェリー・M・ハルティン 氏



サントリーウエルネス株式会社
健康科学研究所戦略企画推進部長
伊地智 節 氏



けいはんなグリーンイノベーションフォーラム



けいはんなリサーチコンプレックスFS

●ラボトリップ

けいはんなに立地する最先端の研究機関(オムロン(株)、(株)国際電気通信基礎技術研究所、国立国会図書館関西館、(国研)情報通信研究機構、大幸薬品(株)、大和ハウス工業(株)、(公財)地球環境産業技術研究機構、(国研)量子科学技術研究開発機構関西光学科学研究所)を巡るけいはんなラボトリップが行われました。各々に英語で解説するコースも設け、国内外から多くの方にご参加いただき、高い評価を得ました。



オムロン株式会社
京阪奈イノベーションセンター



株式会社国際電気通信基礎技術研究所



国立研究開発法人情報通信研究機構



大幸薬品株式会社
京都工場・研究開発センター

●次世代スマートチャレンジ

次世代を担う若手研究者等からスマートシティの形成に向けた斬新で創造的なアイデアを募集したところ、国内外から35件の応募があり、5件のアイデアが優秀賞に選出されました。今後の事業化が期待されます。



●パワーランチ

環境・エネルギー、IoT・AIのテーマ別にコーディネータを交え、出展者間相互のビジネス交流・懇談を昼食会形式で行い、異業種間での活発な交流が進みました。



●今後の展開

今回の「スマートシティメッセinけいはんな」は、前回は上回る企業・団体から出展・来場いただき、盛況のうちに終了することができましたが、会場面、運営面等での課題もあり、次回はさらに充実した内容でスマートシティ形成に向けて工夫を凝らしたセミナー等の開催、ビジネス交流の機会を提供していきたいと考えています。



京都スマートシティエキスポ2016 「けいはんなリサーチコンプレックスFS」連携プログラム

公開シンポジウム

けいはんな学研都市を中心に産官学金24機関が参画する、けいはんなリサーチコンプレックス事業（FS）が主催する公開シンポジウム「超快適スマート社会の実現を目指して～五感・脳情報科学への期待～」を2016年6月3日（金）京都スマートシティエキスポ2016最終日に開催しました。KICKけいはんなオープンイノベーションセンターの会場は海外からの申込みもあり、多くの方が立ち見されるほどテーマへの関心の高さがうかがえました。

基調講演では、東京大学大学院教授 廣瀬通孝氏が注目を浴びているVR（バーチャルリアリティ）の研究事例等を紹介。「バーチャルが変わると行動、現実が変わる。心の問題とテクノロジーが一緒になるのは歴史的必然。心の豊かさは重要。情動、心の問題、快適性の時代が来ている。」と、けいはんなリサーチコンプレックスとVRの関連に高い関心があるとご講演いただきました。

行動経済学の視点からのイノベーションをテーマに、立命館大学経済学部教授 井澤裕司氏にもご講演いただきました。「儲かるかどうかわからない不確実なものに挑戦し、失敗したら自分が責任を取ると言って実行して初めてイノベーションが実現する。そういうアントレプレナーシップをもった人間が活躍できる社会がつかれるかが課題。」と人材やマネジメントの重要性にも触れ、技術シーズだけではないイノベーションのアプローチについてご講演いただきました。ディスカッション・セッションでは両講師をパネリストに迎え、安藤広志氏（NICT脳情報通信融合研究センター、副室長・リサーチコンプレックス研究推進リーダー）、藤本良一氏（日本ベンチャーキャピタル様、執行役員・同事業化支援リーダー）とともに「超快適スマート社会に向けた技術革新と新しい産業価値の創出」をテーマに興味深い議論が交わされました。



東京大学大学院教授 廣瀬通孝氏



立命館大学経済学部教授 井澤裕司氏

東京大学など8の新たな参画機関を迎えて

京都スマートシティエキスポ2016をきっかけに、東京大学大学院教授 廣瀬通孝氏がけいはんなリサーチコンプレックスへ参画が決定。8月18日に第2回協議会を開催し、東京大学、京都大学、奈良県立医大、京セラ等、新たに8機関が加わり全32機関に拡大しました。マネジメント体制も新たに、持続的にイノベーションを生み出す独自のエコシステム構築と、けいはんなが世界でリードするi-Brain ×ICT「超快適」スマート社会の創生を目指し、8月31日にリサーチコンプレックス事業の審査に再提案致します。

（注：「i-Brain」とは、脳情報科学、ライフサイエンス、心理・行動・生体情報計測技術等を含めた技術の総称（造語））

TOPICS TOPICS

関西文化学術研究都市建設推進に向けた要望活動

関西文化学術研究都市建設推進協議会(会長:森詳介関西経済連合会会長)では、政府の予算編成において、けいはんな学研都市の建設促進や産業振興を求め、毎年、国に対し要望活動を行っています。

このたび、7月22日(金)に、森会長を筆頭とする代表委員が、関係府省庁等を訪問のうえ要望書を手渡し、本都市への科学技術ハブ拠点の設置や予算の重点的配分、オープンイノベーションを持続的に創出するための仕組みづくりに向けた支援などを求め意見交換を行いました。(要望事項の要点は以下の通り)

<要望風景>



文部科学省 馳 大臣へ要望書を手交



内閣府 酒井 大臣政務官へ要望書を手交



総務省 高市 大臣へ要望書を手交



国土交通省 石川 道路局長と会談



国土交通省 和田 都市局審議官と会談

建設推進協議会代表委員
(今回の参加者)

森 詳介(関西経済連合会会長)
山下 晃正(京都府副知事)
春名 克俊(大阪府東京事務所長)
村田 崇(奈良県地域振興部長)
柏原 康夫(関西文化学術研究都市推進機構理事長)

関西文化学術研究都市建設推進に向けて重点要望事項 平成28年7月

関西文化学術研究都市建設促進法に基づく国家プロジェクトとして、本都市の持続的な発展を推進するために次の4項目の要望をいたします。

1 本都市への学術・研究機関・企業集積実績を生かした我が国の競争力強化につながる施策の実施

■「新たな都市創造プラン」の推進に向けた支援

新たな都市創造プラン実現のため、「けいはんな新たな都市創造会議」等への参画ならびに新たな都市創造プランの策定に伴う基本方針の改定をお願いします。

■文化学術研究施設に係る特別償却制度の延長

本都市への文化学術研究施設の建設を持続的に支える建物・付属設備・機械の取得に対する法人税の特別償却制度の2年間の延長をお願いします。

■本都市の研究成果を活用した府省横断によるイノベーション創出の推進支援

総合科学技術・イノベーション会議において府省横断的に進められる科学技術政策の実施にあたっては、本都市が有する様々な先端技術を活用いただくようお願いします。

■本都市への科学技術ハブ拠点の設置

理化学研究所の人工知能(AI)の関西研究センターの整備への支援をお願いします。

■本都市への情報通信研究拠点の整備・充実

情報通信に関する研究開発の充実とNHK放送技術研究所の関西支所創設に向け、環境整備をお願いします。

■けいはんな学研都市へのコンベンションの誘致

けいはんな学研都市への国際会議等のコンベンションを開催していただきますようお願いします。

2 都市基盤整備の促進

道路ならびに鉄道の整備等について、特段のご配慮をお願いします。

■学研都市連絡道路(国道163号)、木津中央地区アクセス道路、京奈和自動車道 新名神高速道路、淀川左岸線及びその延伸部の整備推進

■近鉄けいはんな線の延伸、JR奈良線の複線化、リニア中央新幹線の1日も早い全線開業 関西国際空港へのアクセス改善に向けた支援

3 新産業創出・産業集積につながるプロジェクトの推進

■本都市のポテンシャルを活かしたオープンイノベーションを持続的に創出する仕組みの 創設と取り組みの推進

オープンイノベーションの持続的な創出のため、地域実証等における特区活用への支援、人材育成への支援ならびにWG、プロジェクト活動への支援をお願いします。

■本都市および周辺地域における新産業創出や雇用創出に向けた共同プロジェクトの 創出・推進活動への支援

オープンイノベーションの創出に効果のあるリサーチコンプレックス推進プログラムの継続実施ならびに制度の拡充をお願いします。

■「ヘルスケアシステム開発」の事業成果発展に向けた事業化補助金等の創設・拡充・強化

地域イノベーション戦略支援プログラムにおける「ヘルスケアシステム開発」の事業成果を発展させる新規補助金の創設、既存補助金の拡充強化及びその採択への支援をお願いします。

■多言語音声翻訳技術の活用における、実証実験用の研究開発予算の充実に対する支援

グローバルコミュニケーション計画における多言語音声翻訳技術の早期実用化を目指し、実証実験用の研究開発予算の充実、および、関西独自の取り組みの積極的な活用をお願いします。

4 学術・研究開発機能の整備・活用

学術・研究開発施設の整備・拡充に向けた財源拡充等をお願いします。

■量子科学技術研究開発機構 関西光科学研究所(QST)

基盤施設・装置の継続的な整備と世界最先端の研究環境の構築

■情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所(NICT)

ユニバーサルコミュニケーション技術研究開発促進等に対する支援

■国際電気通信基礎技術研究所(ATR)

「安全・安心な社会」実現のためのロボット、脳情報解析、無線技術等研究開発への支援

■地球環境産業技術研究機構(RITE)

バイオリファイナリー技術等革新的なCO2分離回収貯留技術・水素ガス利用技術の研究開発への支援

■奈良先端科学技術大学院大学(NAIST)

運営交付金の確保ならびに競争的資金の制度拡充

■京都大学大学院農学研究科

附属農場の稼働に伴う教育研究体制の整備

■国立国会図書館 関西館(NDL)

書庫増設に関する第二期施設整備工事費用の確保

トップは語る わが研究所は「今」



大和ハウス工業株式会社 総合技術研究所

有吉 善則 所長

有吉 善則(ありよしよしのり)氏

1958年生まれ

1982年京都工芸繊維大学工学部住環境学科卒、
同年大和ハウス工業入社、集合住宅・戸建て住宅の
商品開発を担当

2005年総合技術研究所副所長

2009年総合技術研究所長代行

2012年住宅事業推進部商品開発部統括部長

2015年4月執行役員就任、総合技術研究所長と住
宅事業推進部商品開発部統括部長を兼任



大和ハウス工業総合技術研究所(奈良市左京6丁目6-2)
左側の建物がD'ミュージアム



見学者20万人突破のセレモニー(研究ホール 2015年11月5日)

研究開発のキーワードは「アスファケツノ」です。
(あす不可欠の)
人・街・暮らしの新しい価値を、
豊かな未来に向けて創造していきます。

開かれた研究所 見学者20万人突破

大和ハウス工業の奈良工場内に1973年に業界初の研究施設として開設された中央試験所が、当研究所の前身です。創業40周年記念事業の一環で、けいはんな学研都市平城(ならやま)地区の「ならやま研究パーク」に1994年9月に新設され、今年で22年になります。

中央試験所の伝統を受け継いだのが、2棟あるテクノラボです。建築物の構造や耐火、防水、熱・音・光、土壌などの性能に関する実験、大気汚染物質の分析などを行っています。

当社が研究開発した最新技術を体感いただけるテクノギャラリー、世界各国の住居などを展示したD'ミュージアム、創業者精神を現役世代、さらに後世に伝承する石橋信夫記念館もあり、この3施設は一般に公開している見学施設です(予約制)。昨年11月の帝塚山学院泉ヶ丘中学校さんの来訪で、見学者は20万人を突破しました。

約1万坪(3万3000平方メートル)の敷地には緑を多く配置し、環境との共生を志向しています。地元の奈良市左京地域の皆さんと連携して毎年初夏、D'ミュージアムのホールでクラシックコンサートを開催。今年は第11回目となり、大阪交響楽団の団員によるピアノ五重奏を楽しんでいただきました。

研究所の組織は、「工業化建築技術センター」「信頼性センター」「フロンティア技術研究室」に大別され、約百数十人の研究員が働いており、女性の比率は約15%に上ります。建築工学を専攻した者に加え、機械工学、電気通信、農学、バイオテクノロジーなど多彩な分野の研究員が集まっています。

「建築の工業化」 構造・工法も開発

弊社の創業以来の理念が、「建築の工業化」です。工場で製造した部材を現場で組み立てるプレハブ住宅が、高品質・高性能な住宅をつくるビジネスモデルとして成功しました。ただ、人口が減少し、建築物も余る時代に対応して、新規に市場を開拓する必要があります。

新しい工業化建築、新しい工業化住宅とは、なんだろう。いろんな実験を踏まえて検討し、構造・工法の開発やシステム設計に当たるのが工業化建築技術センターです。信頼性センターは、研究所からアウトプットする技術や商品の性能を検証しています。

弊社は昨年、創業60周年を迎えました。戸建住宅、賃貸住宅やマンションなどの住宅事業、物流施設、商業建築、リゾートホテルの建設・運営など事業領域は広く、連結売上高は3兆円を超えました。次の目標が、創業100周年で連結売上高10兆円です。あと40年で達成するには、新たな分野に事業を広げなくては

けません。次の新規事業に育つ技術の芽を探求し、研究開発を行うのが、フロンティア技術研究室の主な役割です。

わが国が直面する緊要の課題は、少子高齢化や環境エネルギー問題でしょう。建築住宅業界の立場からは、ストックの問題をどうするかも重要です。弊社は、明日の社会に不可欠な事業「ア(安全・安心)ス(スピード・ストック)フ(福祉)カ(環境)ケ(健康)ツ(通信)ノ(農業)」を、こうした課題解決に向けた旗印に掲げています。当研究所も、このキーワードを意識しながら、人・街・暮らしの新たな価値創造に挑戦していきます。

ICTやロボット技術で 社会に貢献

「安全・安心」では、震度7クラスの地震のエネルギーを繰り返し吸収する、柱や梁の損傷を



地震エネルギーを吸収する「Σ形デバイス」



床下を点検走行するmoogle

防ぐ「Σ形デバイス」を開発。この構造体を搭載した住宅「xevoΣ(ジーヴォシグマ)」は、天井が高くとれ、開口部も広がって、快適な暮らしの空間が確保できます。

「スピード・ストック」では、狭小空間点検ロボット「moogle(モーグル)」を開発しました。床下などの劣悪な環境でも、内蔵したカメラでリアルタイムの検査が可能です。ホームインスペクター(住宅診断士)制度ができましたが、非破壊的な検査技法が建物の状況把握の大きな要素になるでしょう。

「福祉」では、ユニバーサルデザインの思想に基づいた独自のフレンドリーデザイン基準を

設定し、当社の商品に採用しています。

当研究所もIRT(情報ロボット技術)を活用して、在宅の高齢者らがベッドから車椅子へ、車椅子からトイレへと体を移す際などに、介護者と被介護者の双方の負担を軽減し、被介護者の尊厳を守る取り組みを進めています。

「環境」は、ゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)やゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)です。太陽光発電、蓄電池、燃料電池を駆使して、建物や住宅単体でのゼロ・エネルギー化を推進します。発電事業も行っていますので、エネルギーの融通をどう合理化するかの仕組みづくりも重要です。

「健康」は、自宅で血圧や血糖値などを測定し、健康チェックができるインテリジェントイレを商品化しました。現在は、販売を中止していますが、健康管理の考え方は継続して次の展開を検討中です。

「通信」は、全ての事業を効率化して、付加価値を与える基盤技術です。弊社のHEMS(ホーム・エネルギー・マネジメント・システム)も、進化の途上だと考えています。

IoT(モノのインターネット)で家と家、家と地域や社会がつながる時代には、エネルギー制御だけでなく、多様な生活サービスを提供する通信インフラになるでしょう。

現在、スマホやタブレットが一般的なインターフェイスですが、今後人口構成がさらに高齢化すると、うまく扱えない人が増えると思います。もっと簡単なインターフェイスなら、音声認識でしょうか…。現役世代が当たり前に使っているから、それでよしではなく、20年先、30年先を見据えて、世の中に受け入れてもらい、社会に貢献できる技術の開発を継続していきます。

「農業」には、食や水の安全が含まれます。植物工場のパッケージ商品「agri-cube(アグリキューブ)」を商品化しました。さらに現在は遊休施設に適したリノベーション型の植物工場も検討中です。高齢者や障害者の皆さんが、生き



植物工場「agri-cube E」

がいを持って植物工場で働ける「農福連携」も研究テーマのひとつです。

研究機関 企業 大学 とのコラボ目指して

産学連携では、2006年度から2014年度まで、奈良県立医科大学に住居医学寄付講座を開設し、現在も継続して住まいと健康に関する研究を連携して進めています。今後はそれらより得られた知見を、建築や住宅にどう落とし込むかがテーマです。

東京大学の高齢社会総合研究機構には研究員を出向させており、実証研究中の長寿社会の街づくりを、私どものスマートタウンの事業に生かします。

文部科学省が金沢工業大学を拠点に進めておられる炭素繊維新素材の開発には、弊社も参画して、当社がプロジェクトリーダーを務めています。炭素繊維複合材は建築や住宅の部材だけでなく、幅広い分野で実用化が見込まれる「次世代構造材料」です。未来インフラの創出に加わるという大義もあります。

いろいろ説明をしましたが、私どもの技術は、専門的にはまだまだです。しかし、一社単独でなにかができる時代ではありません。コラボレーションやオープンイノベーションを推進しながら、けいはんな学研都市の研究機関、企業、大学の皆さんと連携し、一緒に連携したこの学研都市から成果物を送り出すという取り組みに、力を入れていきたいと考えています。

お話から

最近はずっと潜っていませんが、スキューバダイビングが学生時代からの趣味です。海の世界の美しさに感動して、美しい環境を守る大切さを認識。課長時代の2000年に開発した「環境光房」住宅には、いろいろ勉強して太陽光発電、太陽熱給湯、雨水・風呂の残り湯再利用、生ごみ処理機を標準装備しました。「いい住宅を出してくれた」と社内のある営業マンに声を掛けられたことがあり、涙が出そうになったことも。

研究所と商品開発は、兄弟のような関係です。両方の部門を担当していますが、「協力し合う」「切り離す」は、めりはりを付けたいと思っています。研究員には、チャレンジ精神を忘れてほしくないですね。自分ができると思える範囲から、一歩、二歩先を発想し、挑戦してほしい。そう期待しています。

けいはんなを知る

学びの輪・交流の和(第2回)

けいはんな市民雑学大学

関西学研都市の財産は「人」 ＝市民教授から市民が学ぶ 8年間で94回＝

けいはんな市民雑学大学のテーマは、「学ぼう!楽しもう!育てよう!」です。近鉄京都線高の原駅前にあるイオンモール高の原4階ホールを会場に、年末の12月を除いて毎月1回、第四土曜日の午後2時から開講。京都府木津川市や精華町などの市民ボランティアによる「けいはんな市民雑学大学運営委員会」が企画・運営しています。運営委員会の代表は、奈良女子大学の副学長を務めた西村一朗・名誉教授。住居学や地域居住学がご専門です。

西村代表によると、雑学大学の原点は、先行して講演会やワークショップを行っていた「けいはんなのまちづくりを考える会」での議論でした。けいはんな学研都市の財産は、この都市域に住み、働き、多様な分野に知的好奇心を抱いている市民です。この都市域を住みよいまちにしようとする市民自らが「市民教授」になり、「市民学生」となって学ぶ、新しいタイプの「大学」を育てよう。こんな発想から、2008年3月にスタートしました。

運営委員会で市民教授の候補者を選考し、約1時間半の講義を依頼。地域で地道に活動をしている人たちや近隣在住の有識者らが、事前準備も必要な市民教授を、ボランティアで引き受けています。初回は、ハーブ研究家の木津川市の主婦、小芝ルリ子さんが、「心のドアを開きましょう～パワフル奥さん人生自分流～」のタイトルで講義しました。それから8年余り。今年8月の「こうすれば英語は話せる」講座で、94回を重ねています。(表 参照)

参加費は資料代の100円のみで、受講定員は60人。講義のテーマを挙げると、山城国一揆、地球温暖化、奈良うまいもの、ロボット、一休禅師、海外ボランティア、脳と記憶、古事記、里の風景、減災対

策、柿ポリフェノールなど…。まさに「雑学」です。20～80代の幅広い年齢層が受講し、終了後は市民教授を交えた懇親会も自由参加で設定されています。「人生を楽しむヒントを得た」「学ぶ勇気が湧いてきた」。そんな感想が多く聞かれるそうです。

事務局長の渡辺紀子さんによると、会場を奈良女子大学、けいはんな記念公園、国立国会図書館関西館などに移しての“お出かけ”講座を、これまでに12回企画。国産最古級のグランドピアノ「百年ピアノ」を演奏した奈良女子大学記念館(国の重要文化財)での「ソナタってなあに？」講座(2009年6月)には、約300人が参加しました。「受講者も運営スタッフも、来たい時に来ればいいという自由で気楽なつながりが、雑学大学の持ち味かもしれません」。渡辺さんは、こう話します。

来年3月に100回記念講座 地元自治体などの協議会と連携して

9月24日の95回講座には、関西文化学術研究都市推進機構の瀬渡比呂志・常務理事が登壇。UR(都市再生機構)出身の立場から「関西のニュータウンとけいはんな学研都市～このまちの宝物～」のタイトルで講義に臨みました。順調に進めば、雑学大学は来年3月で100回の節目を迎える予定です。

運営委員会も「ここで勢いを付けて、次の新たな段階へ」(西村代表)と、けいはんなプラザを会場とする100回記念講座を準備中です。地元の2市1町(木津川市、京田辺市、精華町)、関西経済連合会、学研都市推進機構などで構成する「けいはんな学研都市活性化促進協議会」と初めて連携し、記念講座のテーマや担当する市民教授の選定を進めています。



第93回の市民雑学大学 あいさつする西村一朗代表(中央)

最近の開催状況

第89回(2016.3.26)	元NHKアナウンサー	野島 正興 氏	百済観音微笑みの秘密
第90回(2016.4.23)	俳句結社「杉」同人	矢野 景一 氏	表現の愉しさ～俳句～
第91回(2016.5.28)	奈良女子大学 理学部物理学科教授	小川 英巳 氏	放射線の物理とその応用～放射線の功罪～
第92回(2016.6.25)	奈良女子大学 准教授	石坂 友司 氏	オリンピックから読み解く現代社会～オリンピックと三つのゲーム～
第93回(2016.7.23)	大阪市立大学大学院 生活科学研究科教授	岡田 明 氏	人にやさしいデザイン～人間工学の視点から～
第94回(2016.8.27)	せいかグローバルネット会長 社会人英会話教室講師	脇田 正利 氏	こうすれば英語は話せる～なぜ日本人は英語が話せないの?～

けいはんなラボコミュニティ

ラボ棟のベンチャー中心に親睦や交流 ＝活動のグレードアップ目指す＝

京都府精華町の「けいはんなプラザ」には、主に研究開発型の企業が事務所や研究室を置く「ラボ棟」(地下1階 地上13階)があり、創業間もないベンチャーを支援するインキュベートルームも開設されています。ラボ棟の入居企業と、ラボ棟を卒業した企業でつくる有志の会が、「けいはんなラボコミュニティ」(KLC)です。

先端技術のベンチャーを中心にICT、環境・エネルギー、化学、バイオ、健康・医療、保険など異業種の計25の企業と団体(表)が集まって、情報交換などの親睦・交流活動に取り組んでいます。

KLCの会長を昨年11月から務めるのが、セラミック分離膜のベンチャー、イーセップ株式会社の澤村健一社長です。早稲田大学・大学院で膜分離技術を研究し、日立造船を経て2013年に起業。

ラボ棟のインキュベートルームを基点に成長し、今年8月からは「けいはんなオープンイノベーションセンター」(KICK 精華町・木津川市)に拠点を移しました。

KLCの主な活動は、情報交換を柱とした毎月1回の定例会、会員の歓迎・送別会、毎年春に国際電気通信基礎技術研究所(ATR)の中庭を借りて実施している親睦バーベキュー会、けいはんなビジネスメッセなどの展示会への共同出展です。

インテックス大阪での昨年5月の新価値創造展には、イーセップのほか、泡の粒を細かくするマイクロナノバブル発生装置などの有限会社トリビオックスラボラトリーズ、花粉や「PM2.5」吸引ブラシなど健康機器・機能性材料を開発販売する株式会社H&C技術研究所が出展しました。京都産業21けいはんな支所などの公的機関もKLCの活動を支援しています。

当面の課題として澤村会長が挙げるのが、活動のグレードアップです。会員相互の研鑽で知力、技術力、企業力を高める交流活動や、会員の経営資源などに関する情報発信の強化に取り組む考えです。

年内をめどに規約を新しく制定し、入会時に5000円を支払うだけの会費も見直す方針で、「交流の輪をさらに広げ、けいはんな地域全体の発展に寄与したい」(澤村会長)と話します。



4月の懇親バーベキュー会
(ATR中庭)

教育イベントを後援 電子レンジdeサイエンス!

会員企業である有限会社ミネルバライトラボの松村竹子取締役(奈良教育大学名誉教授)は、日本学術振興会の委託で小・中学生向けの教育啓発イベント「電子レンジdeサイエンス!」を8月と9月に実施。ラボ棟会議室で9月に行われたイベントは、KLCで後援しました。

松村取締役は大学在職中のマイクロ波化学の研究実績をもとに2003年、大学発ベンチャーの同社をインキュベートルームで起業。KLCの初代代表も務めました。

夏休み中の8月のイベントは、奈良教育大学の化学実験室で開催されました。電磁レンジで、なぜ食べ物が温まるのか。マイクロ波の性質に関する講義の後は、6班に分かれて実験です。電子レンジを用いたハンカチの草木染めを体験したり、電子レンジの中に再現された「オーロラ」を観察。終了後は「未来の博士号」証書が、参加者全員に手渡されました。



証書を手渡す松村竹子氏(奈良教育大学)

KLC会員企業

(※はラボ棟から別の場所に事業所を移した企業 2016年7月現在)

(株)アジア・ユナイテッド・コンピューティング	ADIA(株)
イーセップ(株)	(株)H&C技術研究所
(株)イーアイ※	(株)エステン化学研究所※
(株)奥本研究所	オパーツ(株)※
加藤社会保険労務士事務所※	京都旬ラボ(株)※
(一社)けいはんなグリーンエネルギー研究所	(株)けいはんな食文化サービス
(株)Conditioning Lab	(株)シーメイダ
住友生命保険相互会社京都支社 精華学研支部	(株)タイムドメイン
テルモビレー(株)	(有)トリビオックスラボラトリーズ※
(株)仁和送風機開発研究所	ブライダルサロン花梨※
(株)プロキタイ	(株)ペリフォア
(有)マイクロシステムズ	(有)ミネルバライトラボ
メディソニック(株)	

豊かな未来を創る次世代型農業技術の開発と実証拠点 京都大学大学院農学研究科附属農場

2016年4月木津川市にオープン



京都大学大学院農学研究科附属農場は、平成28年4月に大阪府高槻市から京都府木津川市に移転し、農学の教育・研究のための最新の施設・設備が整えられた木津農場として新たにスタートしました。

木津農場の面積は24.6haで、水田、畑地、果樹園などの圃場や野菜、花などの温室があり、地下水位制御システム、光センサー選果機、複合環境制御温室、トリジェネレーションシステム、GPS基地などを導入し、先進的な農業生産を学ぶ農場実習施設として、また、次世代の農業技術を開発する農学研究施設としての機能を備えています。農場本館は3階建て3400㎡となっており、講義室や宿泊施設があり、農学部学生を対象に週2回の通年実習や夏期の集中宿泊実習を行っています。また、調理実習室を備えており、農作物の栽培から収穫・調理・食に至る一連の実習教育を行っています。一方、平成28年7月に文科省の教育関係共同利用拠点に認定され、全国の大学生を対象とした農場実習科目の受講生を公募します。

木津農場では、化石燃料を多用し環境負荷の大きい現在のエネルギー投下型農業から脱却するため、400kwの太陽光発電装置を設置し、再生可能エネルギーによる農作物の生産と農地における再生可能エネルギー生産を共に行う「グリーンエネルギーファーム」モデルを構築しており、農作物と再生可能エネルギーを同時に生産する実証研究を実施しています。この社会実装に向けて、蓄電や蓄熱、水素製造、エネルギーマネジメントなど、京都大学の幅広い分野の研究者が連携した体制で研究に取り組んでおり、関連する企業を含めて事業化に向けた新規技術開発や商品開発などを目指しています。本館にはプロジェクト研究室やプロジェクト実験室があり、このような産官学連携などで他機関の研究者が利用できる態勢を整えています。

本館1階には農産物販売室があり、農場で収穫した新鮮な農産物を販売しています。今年は移転したばかりで、収穫できる農作物はイチゴ、トマト、お米、花などに限られていますが、数年後にはブドウ、モモ、ナシ、カキ、アスパラガスなどが収穫できます。毎年11月3日(祝)にオープンファームを実施して一般市民の方々に施設を公開しています。今年は木津農場で初めての開催となり、公開講座、農場ツアー、農業体験実習、公開ラボ、パネル展示、農産物即売などのイベントを企画しています。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

なお、公開行事以外の農場への立ち入りは、本館1階の農産物販売室に限らせていただいています。

〒619-0218 京都府木津川市城山台4丁目2番地1
TEL 0774-94-6405 FAX 0774-94-6398
農場ホームページ
<http://www.farm.kais.kyoto-u.ac.jp/>



世界に誇る文化学術研究都市を目指して

けいはんな学研都市の「知の中核機関—知的ハブ」としての役割を果たすべく設立された国際高等研究所（高等研）は、私たちの持つ問題意識を産学公民の各ステークホルダーの皆様と共有し、世界に問いかけ、議論し、解決策を考え、社会実装する取り組みを行っています。ここでは、けいはんな学研都市が世界をリードする文化学術研究都市となるべく推進している、「『けいはんな未来』懇談会」および「エジソンの会」をご紹介します。



「けいはんな未来」懇談会 30年後の街の「ありたい姿」を求めて

「けいはんな未来」懇談会は、けいはんな学研都市の30年後の未来を見据え、「けいはんな」の特長を生かしながら都市全体を成熟させていくための青写真をデザインすることを目的として、2015年7月から活動を始めました。メンバーには、産業、学術、行政から未来を語るに相応しい方々に参画頂き、長期的視点をもってけいはんな学研都市のあり方を議論してきました。

けいはんな学研都市は街びらきから約30年を経過しておりますが、その頃に現在の社会の姿を予測できていたかと問われれば、非常に難しいというのが正直なところではないかと思われま。そこでまずは、30年後の社会に向けて、産業、文化、学術、インフラ、ビジョンの確立などの視点において、街づくりに向けたポイントを抽出しました。

2015年度はフレームワークとなる部分を中間報告としてまとめました。その内容と現状の検討メンバーにつきましては以下をご参照下さい。

http://www.iias.or.jp/public/news/2016_0613.html

今年度は当該プログラムの2年目にあたります。様々な観点から知見を結集し、30年後の未来を検討すべく、更に多様な専門性や視点を有するメンバーを拡充し、専門検討部会を立ち上げました。

けいはんな学研都市に関わる皆様ワクワクする街を目指して、「けいはんな未来」懇談会の取り組みにご期待下さい。



「エジソンの会」 街の発展を支える基幹産業を構築する



街づくりと都市の発展には、基幹となる産業の存在が必須です。「エジソンの会」は、けいはんな学研都市が標榜する「立地機関間の連携とそれによる成果の創出」を促進するための立地機関によるコミュニティの形成と、この街ならではの基幹技術・基幹産業の確立を目指して設立しました。

30年後に向けた研究開発や産業の発展の軸となるものとして、これから大きな発展が期待される「ビッグデータ・IoT・AI・ロボット」をターゲットに置き、当面のところではAIの最新動向や知識のシェアを行いながら、国研、大学、企業を結び科学技術シーズと社会ニーズの間に双方向の流れを作り、2020年までにAIに関するテーマで結果を出すことを目標に置いています。

更に将来に向けては、けいはんな学研都市の研究機関や企業の連携によるシナジーで価値を生み出し続けられるようにすることを通して、具体的な「オープンイノベーション」の成功事例確立に寄与するだけでなく、けいはんな学研都市の核となる科学技術ドメインを確立し、「けいはんなといえばAI」といったように、世界をリードするサイエンスシティを目指します。

これまでの講演・勉強会では、金出武雄先生（カーネギーメロン大学）や杉山将先生（理化学研究所AIPセンター長）といったアカデミアのトップランナーの講演に加えて、産業側の技術動向や最新事例の紹介を行いました。これからは、AIとその隣接領域のみならず人文社会系の視点も含めた講演・勉強会の開催と並行して、個別具体的な共同研究・開発も展開して参ります。

注目! 企業 インタビュー

今回は、ATR内にオフィスを構えるけいはんな学研都市の企業をご紹介します。



代表取締役社長 古城戸 新吾氏

Coolware

www.coolware.jp

株式会社クールウェア

プロフィール

株式会社クールウェアは起業拠点としてけいはんなプラザのインキュベーション施設に入居後、2006年に設立されました。社名の由来は「カッコいいソフトウェア」。米国人の友人から提案されたネーミングをそのまま即決で採用したそうです。PCやスマートフォンアプリのソフトウェア開発を主に、ホームページ制作、Webサービス提供を通して、けいはんな地域の賑わいづくりに貢献しています。

けいはんなで培った スキル・人脈

もともと、重工業のエンジニアとして、タンカーや潜水艦などの生産工程自動化システムを開発していました。自分の発想をダイレクトに表現できるような仕事をしたいと思い退職。家族や友人などいろいろな人と話す中で、自分の技術的なスキルを活かして新しい仕事を産み出すことで人の役に立ちたいと思うようになりました。時あたかもビルゲイツやスティーブジョブズがパソコン業界を席捲し始めたころです。

そんな折に偶然お誘いをいただき、ATR(株式会社国際電気通信基礎技術研究所)にエンジニアとして入社することになりました。ロボット用のソフトウェア開発など最先端研究の場で貴重な経験をさせていただいた後、自分のもつIT技術を活かして新しい仕事を創るという目的に向けて独立しました。

会社設立以来、近隣の研究機関などから依頼を受けて、主に研究用のソフトウェア開発を手掛けてきました。けいはんな地域には学生でもプログラミングのできる優秀な方が多く、人材に恵まれています。IT企業の拠点としては最適な場所です。研究に関わる仕事は守秘契約を結んで開発を進めますので、外部には出せない内容も多かったりします。

一方で、オープンな形のIT活用として、スマートフォンアプリを自社で開発・販売したり、情報投稿サイトをリリースしたりもしてきました。スマホアプリやインターネットサービスは、アイデアや技術をユーザーへ直接提供できるツールとして欠かせないものなので、これらを活かした自社事業には今後も力を入れていきます。

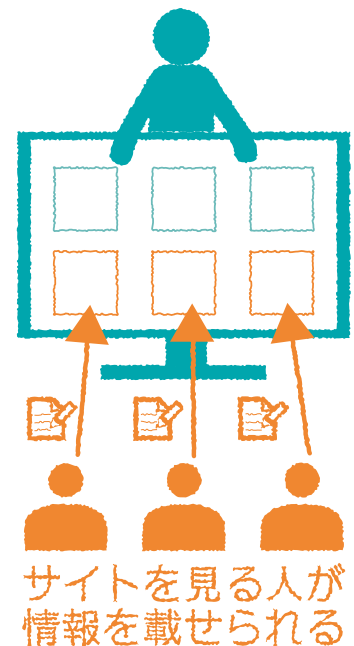
オウンドメディア時代の Webサービス作成システム

2016年10月に、Webサービス簡単作成システム“SHARE.info(シェアインフォ)”をリリースします。

“SHARE.info”は、数個の項目をフォームに入力するだけで投稿型のWebサイトをインターネット上に公開できるシステムです。こう言うと、「簡単にホームページが作れるってこと?」と思われそうですが、“SHARE.info”で作れるWebサイトは、単なるホームページやブログとは仕組みが異なります。

一番の違いは、サイト上から文章や写真を投稿できることです。例えば「ぐるなび」などの口コミサイトや、「Yahoo!知恵袋」などのQ&Aサイト、掲示板サイトなどは、サイトを見る人が情報を掲載しますよね。

サイト運営者



“SHARE.info”で作れるのはそういった“投稿型”のWebサイトなのです。投稿者に問合せができる機能もあるので、ユーザー同士が直接情報交換することも可能です。運営側が情報発信するブログなどと違い“SHARE.info”で作ったサイトでは、運営者は基本的に「場」を提供する役割を果たします。提供された「場」を利用して情報発信



アイデアを実現 する多様な ポテンシャル

です。イベントや
お店の宣伝、仲間
募集などの情報が
無料で載せられま
す。

“SHARE.info”

や交流をするのは、サイトを見る人たちです。

つまり“SHARE.info”は、Web上で何かのサービスを提供したい方のためのシステムなのです。

Webサービスをオーダーメイドで制作すると数百万円以上の費用がかかります。中小企業や個人の方は、コスト面を理由に制作を断念する場合がございます。世の中をよくするアイデアやビジネスプランがあるのに形にできないのはもったいないことです。

そこで、安価で気軽にWebサービスが立ち上げられるよう、自動で投稿型Webサイトを作成できるようにしたのが“SHARE.info”です。モニターを募って意見を聞きながら、試行錯誤の末にリリースとなりました。操作をできる限りシンプルにすることにもこだわっています。ユーザー登録時などにクレジット課金できる機能もついていますので、サイト運営から収益を上げることも可能です。無料のお試しプランも用意しましたので、「自分でメディアを持つ」ワクワク感をぜひたくさんの方に体験していただきたいと思っています。

Webサービスを 地域に活かす

“SHARE.info”で作ったWebサービスの一つが、京都府精華町・京田辺市・木津川市周辺に特化した生活密着型の投稿サイト「けいはんな掲示板」
(<https://theshare.info/keihanna/>)

のリリースに先駆けて事例として公開しましたが、すでに投稿も増え、アクセス数も順調に伸びています。各地の自治体や商工会などで、「けいはんな掲示板」のようなご当地Webサービスをどんどん作っていただけたら、地元愛の受け皿にもなるし、地域の魅力もアピールできてすごく面白いと思います。

“SHARE.info”は、汎用的な投稿型サイトを自動で作ることができますが、独自のレイアウトにしたり、機能を追加したりといった細かいご希望はかなわない面もあるかもしれませんが、その場合は、個別に御相談いただくことになります。

2016年4月に公開された「けいはんなポータル」(運営:関西文化学術研究都市推進機構)が、当社でオーダーメイド制作した投稿型サイトの事例です。無料でユーザー登録できて、けいはんな学研都市に関する情報を誰でも投稿できます。新規投稿が掲載されると同時にメールを一齐配信する機能もあります。2016年9月の登録ユーザー数は、学研都市で働く人や地域住民の方を中心に1,600人あまり。1日平均1.8件の投稿があるそうです。ここに投稿すると一気に自社サイトのアクセス数が増えるという話も聞きます。投稿型Webサービスの利点を存分に活かした地域メディアとなっていて嬉しいです。

すべてのビジネスの本質は、需要と供給を結びつける「マッチング」です。

“SHARE.info”にはマッチング機能がありますので、アイデアさえあれば、新しいビジネスをすぐに立ち上げられます。「新しい仕事を産み出したい」というかつて私が抱いた目標を“SHARE.info”がかなえてくれると感じます。ビジネスだけでなく、リサイクルや災害物資の支援、ボランティア活動のマッチングなどにもぜひ活用してほしいです。社会全体で情報や物をシェアすることができれば、貧困や格差などの多くの問題はなくなると思うのです。それが“SHARE.info”のサービス名に込めた願いです。

けいはんなポータル <<https://keihanna-portal.jp/>>



株式会社クールウェア

〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台2丁目2番地2 ATR内 W棟2F
TEL: 0774-94-9270
URL: <http://www.coolware.jp>
E-mail: info@coolware.jp

温故知新

●京田辺市の伝統行事

奈良・京都・大阪をつなぐ要衝ようしゅうに位置する京田辺は、歴史豊かなまちで、数多くの伝統行事が残されています。しかし、近年では地理的利便性から急激に都市化が進み、貴重な伝統行事が失われてきています。今回は秋の伝統行事のうち、多くの人々で賑わう「大住隼人舞」おおすみはやとまいと「山本の百味と湯立」ひやくみ ゆだてを取り上げ、京田辺の伝統行事の魅力をお伝えします。



盾伏の舞

京田辺市の大住地区には、延喜式内社で旧村社の月読神社あまつと天津神社があり、毎年10月14日に「大住隼人舞」が奉納されます。飛鳥時代後期(7世紀)に南九州の大隅隼人が畿内の大住地域に移住し、朝廷で「風俗の歌舞」と呼ばれた隼人舞を演じたようです(『大住隼人舞の由来』)。昭和46年に、大住地区の人たちが中心となって、鹿児島県祁答院町(現薩摩川内市)の日枝神社に伝わる隼人舞をモデルに、断絶していた大住隼人舞を復元しました。そして、昭和50年には市の無形民俗文化財に指定され、その翌年には大住隼人舞保存会が結成され、今日に至っています。

大住隼人舞は、中学生男子による「お祓の舞」はらい「神招の舞」かみおぎ「振剣の舞」ふりつるぎ「盾伏の舞」たてふせ「弓の舞」ゆみ「松明の舞」たいまつの6種に、小学生女子による「隼人おどり」を加えた7種からなります。このうち前6種は鹿児島の伝統に学んで演じられていますが、「隼人おどり」は大住地域で新たに生み出されたものです。

里帰り上演として、平成16年に鹿児島県隼人町(現霧島市)で開かれた隼人サミットで大住隼人舞、鹿児島神宮隼人舞、せばる隼人舞が共演しました。そして、平成25年に霧島市で開かれた大隅国建国1300年記念事業でも3種の隼人舞が共演しました。

また、平成22年に開かれた平城遷都1300年祭では、約1250年振りに奈良の地で大住隼人舞を上演しました。

このように、大住隼人舞は市の内外で上演し、その継承と発展に努めています。



大隅建国1300年記念事業

1	はらい お祓の舞	舞人が自分や舞の場所などのけがれを祓い清めるための舞
2	かみおぎ 神招の舞	祓い清めた舞の庭に月読の神や天津神などを呼び招くための舞
3	ふりつるぎ 振剣の舞	けがれや悪魔を追いはらい、隼人の勇ましさを誇示する舞
4	たてふせ 盾伏の舞	盾を持って外から押し寄せてくる悪霊を防ぐための舞
5	ゆみ 弓の舞	弓の巧みさを誇示すると共に狩猟の豊かさを祈る舞
6	たいまつ 松明の舞	火を恐れ敬い、神々に感謝の意を表する舞





湯を諸方に振りまく市人

10月体育の日前日(以前は10月17日)には三山木の山本地区の
 さがじんやおたびしょ やまもと ひやくみ ゆだて
 佐牙神社御旅所で「山本の百味と湯立」が行われます。佐牙神社から
 みごし
 神輿が昼ごろ御旅所に到着すると、各氏子から集めた芋類・豆類など
 の野の幸、山の幸100余種を神前に供えます。昔は、地区の池で鯉を
 飼いお供えしていたそうです。お供えした百味は氏子のみなさんと
 「お下がり」として頂くそうです。夜には御旅所の前庭で湯立神楽が
 ゆだてかぐら
 奉納されます。湯立用の釜を置き湯をわかし、市人が鉦と太鼓のはや
 しにあわせ神楽を舞い、最後に神篋で煮え立った湯を諸方にふりかけ
 ると氏子の人たちは無病息災を祈ります。百味は元来、寺院の大法会
 だいほうえ
 の際に仏前に供えるお供え物のこととされ、それが神仏習合により神
 しんぶつしごう
 社にも取り入れられ、神仏分離の後も伝わっています。南山城地域の
 しんぶつふんり
 いくつかの神社にも現在も残り、氏神と宮寺が並存することの多かつ
 た南山城地域のひとつの歴史過程を示すものとして貴重なものとい
 えます。この百味と湯立ては、おそらく中世から続けられているものと
 考えられ、山本地区の氏子たちにより大切に現在まで受け継がれてい
 ます。

えんぎしきないしゃ
 佐牙神社は延喜式内社で、社伝によると573年に創建されたとさ



佐牙神社本殿(国指定重要文化財)

れています。創建当時は、木津川に近い場所にあった
 とされていますが、洪水の被害から逃れるために永享
 えいきょう
 年間(1429~41)に現在の地に移転しました。天正
 てんしょう
 年間(1573~92)に再建されたとされる社殿は左右
 いっけんしゃがすがつくりひわだき
 両殿の間社春日造り檜皮葺で、国の重要文化財に
 指定(大正12年3月28日指定)されています。平成

14年に屋根の葺き替えとともに色彩も修理され丹塗りが鮮やかによ
 みがえりました。

「大住隼人舞」と「山本の百味と湯立」を紹介しましたが、京田辺市
 ついたちこう かぐら すいきごし
 内には他にも「朔日講の神楽」や「瑞饋神輿」などの伝統行事が多く
 の地区で残っており、秋になると市内各所で催され、多くの人で賑わ
 います。



お供えされた百味

EVENT CALENDAR

●一般の皆様へ **10 October**

けいはんなプラザのイベント詳細はホームページをご覧ください。
<https://www.keihanna-plaza.co.jp/>

●けいはんな映画劇場

「海よりもまだ深く」

監督: 是枝裕和
 出演: 阿部寛 真木よう子 小林聡美 リリー・フランキー 樹木希林 ほか
 2016年/日本 配給: GAGA

夢見た未来とちがう今を生きる、元家族の物語 映画公式HP:<http://gaga.ne.jp/umiyorimo/>

上映日時(1時間57分)				【料金】※当日券のみ 一般1,000円 小・中学生、シニア(60歳以上) 700円 けいはんなプラザ友の会会員700円
10月21日(金)	10:30~12:27	13:30~15:27	18:30~20:27	
10月22日(土)	10:30~12:27	13:30~15:27	16:15~18:12	



●一般の皆様へ **11 November**

ひらめき、きらめき、未来へのときめき! けいはんな情報通信フェア2016

けいはんな学研都市にある研究機関や大学、企業に関連する研究成果を、講演や展示でわかりやすく紹介します。

オープニング・セレモニー 11月10日(木)13:30~15:00 けいはんなプラザ3階ナイル



基調講演 Think Extreme (極端に考えよう)

~人工知能、ロボット、生命科学における破壊的イノベーションは如何に起きるのか?~

北野 宏明氏 | 株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長 所長
 特定非営利活動法人システム・バイオロジー研究機構 会長

一般講演 11月11日(金)10:10~12:30 11月12日(土)10:30~12:00 けいはんなプラザ3階ナイルB

正露丸・クレペリンの歴史とメカニズム 11/11(金) 10:10~10:35 | **滝川 裕弘氏** 参加者に関連製品をプレゼント(数量限定)
 大幸薬品株式会社 研究開発センター 研究開発・第2製造部 統括部長

日本電産のミライ 11/11(金) 10:35~11:00 | **中島 豊平氏**
 日本電産株式会社 生産技術研究所 副所長

オーロラから探る地球環境 11/12(土) 11:30~12:00 | **村山 泰啓氏** 参加者に南極カードプレゼント(数量限定)
 国立研究開発法人 情報通信研究機構 統合ビッグデータ研究センター 研究統括

展示 11月10日(木)13:00~17:00 11月11日(金)10:00~17:00 11月12日(土)10:00~16:30 けいはんなプラザ1階 イベントホール1

大規模災害時の被災状況把握システムDISAANA & D-SUMM ●多言語対応案内ロボット
言葉の壁をなくす多言語音声翻訳アプリVoiceTra ●びたりえ:この子にびたりの
ウェアラブル脳波計の開発 **今秋公開** **絵本探しシステム**

※約50件の展示がございます。詳しくは<http://khn-fair.nict.go.jp>をご覧ください。



日時: 11月10日(木)13:00~17:00
 11月11日(金)10:00~17:00
 11月12日(土)10:00~16:30

場所: けいはんなプラザ
 国際電気通信基礎技術研究所 (ATR)

会場へは、便利な無料シャトルバスをお使いください。
 近鉄「高の原駅」「学研奈良登美ヶ丘駅」発着

料 金: 無料(事前申込み必要なし)
 問合せ: けいはんな情報通信フェア2016
 実行委員会 事務局 (NICT内)

TEL:0774-98-6900
 FAX:0774-98-6955
 URL:<http://khn-fair.nict.go.jp/>
 e-mail:khn-fair@khn.nict.go.jp



”けいはんな”体感フェア2016 @ナレッジキャピタル

けいはんな発の技術や取組についての体感型展示。
 子どもから大人まで、最先端の科学を楽しみながら体験できます!

日時: 11月19日(土)・20日(日) 10:30~18:00

場所: グランフロント大阪北館ナレッジキャピタル The Lab.2階 アクティブスタジオ

主 催: けいはんな情報通信フェア2016実行委員会
 (公財)関西文化学術研究都市推進機構

共 催: (国研)情報通信研究機構、(公社)関西経済連合会

問合せ: (公財)関西文化学術研究都市推進機構 TEL0774-98-2277(体感フェア事務局)

●けいはんな映画劇場

「殿、利息でござる!」

千両集めて、ピンボー脱出!!

庶民VSお上!知恵と勇気と我慢の

銭戦(ゼニバトル)が今、はじまる——。

監督 中村義洋

出演: 阿部サタヲ 瑛太 妻夫木聡 竹内結子 羽生結弦(友情出演) ほか

原作: 磯田直史『無私の日本人』所収「穀田屋十三郎」(文春文庫刊)

2016年/日本 配給: 松竹 映画公式HP:<http://tono-gozaru.jp/>

上映日時(2時間9分)				【料金】※当日券のみ 一般1,000円 小・中学生、シニア(60歳以上) 700円 けいはんなプラザ友の会会員700円
11月11日(金)	10:30~12:39	13:30~15:39	18:30~20:39	
11月12日(土)	10:30~12:39	13:30~15:39	16:30~18:39	



●けいはんな映画劇場

劇団四季ファミリーミュージカル 「ガンバの大冒険」

仲間の危機を救おうと自ら立ち上がった町ネズミのガンバ。
大海原を越えて進んだその先に待っている、勇気、友情、優しさ、絆。
パワフルな歌とダンス、手に汗握る大冒険。

ガンバと出会ったら、きっと強く、優しくなれる。

人生の宝物になりそうなのが、ギュッと詰まったミュージカルです!

日時: **11月23日(水・祝)**

14:30開場

15:00開演

場所: けいはんなプラザ
メインホール

料 金: (全席指定) (前売) 大人 4,500円
けいはんなプラザ友の会 4,300円
子ども(小学生以下) 3,000円
※当日券500円アップ
※前売りで完売した場合、当日券の販売はございません。

窓口販売: 平日10:00~17:00

問 合 せ: (株)けいはんな 事業部 TEL:0774-95-5115
劇団四季「ガンバの大冒険」の公式HP
<https://www.shiki.jp/applause/gamba/>

チケット取扱い先: (株)けいはんな(けいはんなプラザ3階)
・ローソンチケット/0570-084-005(コード58682)
・ケイネット平和堂 京田辺店/0774-65-2109
・劇団四季予約センター/0120-489444(10:00~18:00)



けいはんな フィルハーモニー管弦楽団演奏会

客演指揮: 藏野 雅彦

モーツァルト/歌劇「劇場支配人」序曲 K.486

ハチャトゥリアン/組曲「仮面舞踏会」

カリニコフ/交響曲第2番イ長調

日時: **12月11日(日)**

13:30開場

14:00開演

場所: けいはんなプラザ
メインホール

料 金: 大人 1,000円
けいはんなプラザ友の会 700円
小学生500円 ※未就学児入場不可

主催: 問合せ
けいはんなフィルハーモニー管弦楽団
<http://www.kpo.jp/> E-mail:info@kpo.jp



私たちと一緒に
演奏しませんか?
当団では団員を
募集しています。

募集パート: ファゴットおよび弦楽器全パート

練習日: 原則として毎週月曜 19:00~21:30

集中練習として週末(主に日曜日)に

練習する場合があります。

練習場所: 主にけいはんなプラザ内イベントホール2

(所在地: 京都府相楽郡精華町光台1-7)

詳しくは、info@kpo.jp宛 E-Mailでお問い合わせください。



同志社大学 同志社京田辺会堂

キリスト教主義の象徴である礼拝堂を有する言館 (KOTOBA-KAN) と、ラウンジが入る自由主義を表す光館 (HIKARI-KAN) からなる。両棟の間には、創立者・新島襄が国禁を犯して大海原を渡ったことを表す「新島襄の海」を配置し、国際主義の原点を表現。会堂が一体となり同志社建学の精神を象徴しています。

けいはんなの話題



「とどけ北極星に けいはんなの光2016」 「第7回Jazzのタベ」開催

けいはんなの地域住民や立地の企業・研究機関等にお勤めの方が交流できるイベントとして、8月5日、けいはんなプラザ日時計広場にて「とどけ北極星に けいはんなの光2016」と題し、夜祭りイベントが開催されました。

くじ引き・射的などの子供向け縁日やタコス・飲み物など数多くの出店が出展し、子供から大人まで多くの方が集まり大賑わいとなりました。

日没と同時に、会場全員によるカウントダウンの掛け声により、日時計の先端からレーザー光線が北極星に向かって一直線に輝いた瞬間は、祭りの盛り上がりも最高潮に達しました。

来場者は事前の予想を大きく上回る大盛況となり、各出店が長蛇の列で埋め尽くされ、縁日ではじける子供たちの笑顔が印象的でした。

今回のイベントの主催者である「けいはんな日時計レーザーの会」は、けいはんな地域の継続的な発展を願い、まちのシンボルであるけいはんなプラザ日時計広場のレーザー光線を守る活動を続けています。イベントを通じて人的交流が活発となり、今後ますますレーザー会への支援の輪が広がることが期待されます。



同時イベントとして、けいはんなプラザ屋内で「けいはんなプラザ・ブチコンサート第7回Jazzのタベ」が開催され、ボーカルの西脇千花さんの優しく情感あふれる歌声や、ピアノ、ベース、ドラムの激しいリズムを伴う迫力ある生演奏に、300人を超える観客がうっとり真夏の夜のジャズクラブの雰囲気浸っていました。

編集後記

リオオリンピック・パラリンピックの「熱い夏」が終わりました。絶対女王が惜しくも破れ、スーパースターの引退表明等の波乱は有りましたが、彼らの背中を見て育った若手が躍動し、柔道、体操、水泳、卓球、レスリングと、世代交代の「予感」が現実のものになってきた感があります。次回の東京大会が増々楽しみです。

半世紀前の1964年は、国の威信をかけて東海道新幹線を開通させ、高度経済成長の基盤整備が出来た時点で開催し「東洋の魔女」の活躍に沸きました。2020年は、コストも抑え、エコで、成熟した持続可能な社会モデルを示し、ロボットや多言語翻訳などグローバル社会を先導する先端テクノロジーを提示する意味でも、けいはんなの役割は大きいと思います。

学研都市も、新たなステージに入り、「超変革」の真最中。オープンイノベーションが進み、ベンチャーも大きく脱皮する事も期待し、4年後の社会と学研都市の変貌を「けいはんなView」も見つめていきたいと思っています。(明)

○編集・発行 公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構
関西文化学術研究都市建設推進協議会
〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台1-7
けいはんなプラザ・ラボ棟3階
TEL.0774-95-5105 FAX.0774-95-5104

○ホームページ <http://kri.or.jp/>
○けいはんなポータル <http://keihanna-portal.jp/>
○制作・印刷 株式会社チャンピオンシッパス

